

1 自己評価及び外部評価結果(A棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401118		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム星の里		
所在地	千葉県千葉市若葉区野呂町738-2		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・周りが「田んぼと森林」と自然がいっぱいで空気がとても良く静かで、毎日穏やかに暮らせます。介護専用ベットや椅子の使用及び散髪も無料です。 ・グループホーム内の菜園には季節の野菜が植えられ、成長時期には作物の観賞をまた収穫時期にはその野菜の収穫場所等を話しながら、取立てを入所者本人に美味しく食べて頂くこととしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは近隣に住む職員が多いこともあり、理念に掲げた「地域の人たちの協力」関係が速やかに作られてきた。職員は自立支援という趣旨のもと、入居者を家族のように思い、入居者のできることや職員の役割を考えながら向きあっている。ケアにあっては、必ず職員全体で話し合い方向性を決めることを徹底している。ホームの運営方針にも謳われている、入居者一人ひとりの人格の尊重について、自分が嫌だと思ふことはやらないということを基本にして言葉かけや対応をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(A棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症により自立した生活が困難な入居者に対し地域の人達の協力を得て安心と安定した生活を支援する」理念をミーティング時に合唱している。	法人の理念をわかりやすい表現で、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念に作りかえた。職員にはミーティング、会議で周知し、玄関にも掲示して日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。町内会の敬老会や図書館のイベントに参加し、地域の方との交流の機会を設けている。	自治会の敬老会に参加したり、花火大会の時はホームの庭で近隣住民と共に鑑賞している。近所とは、互いに差し入れをし合うなど、ホーム自体が地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時など声をかけたり、ボランティア受け入れ時には声掛けて招待している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告、現状の報告や意見交換、質疑応答を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は外部の人から色々なアドバイスを得られる場であるという思いから、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、近隣の住民など様々な人に出席してもらい意見交換を行っている。開催回数を増やす目標があり、年々増えてきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政に出向いたり連絡をとりあい、相談、アドバイスをいただき協力関係を築いている。	日頃から、市の担当課とは連絡を取り合い、入居者のことで分からないことなど、何でも相談できる関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修に参加、ビデオでの勉強等により、拘束をしないケアに努めている。	身体拘束を理解するために、職員は研修参加、ビデオでの勉強会で学んで日々のケアに取り組んでいる。入院中に拘束をされていた入居者を受け入れの際も、職員で話し合い、拘束をしないケアに努めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し理解を深め、ケアの中でも職員同志注意して防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在2名の人が活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約重要事項について十分説明し、理解していただけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声かけし、できるだけ何でも言える環境作り心掛けています。 利用者の訴えに傾聴するよう心がけている。	家族には面会時に状況報告をするとともに、意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議に欠席した家族の意見も把握するために内容を報告し、情報提供を行うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員に意見が出やすいように配慮している。 職員の意見は一つひとつ反映させていくよう努力している。	職員の意見は必ず全員で話し合うことになっており、意見が言いやすい環境が整っている。また、職員は設立当時から勤務している人が多く、管理者とも話しやすい関係が出来ている。管理者は意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとり働きやすい環境を作り、向上心をもって仕事ができるよう柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に受講できるようスキルアップしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム連絡会などを通じてサービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が抱えている不安なこと、困っていること、何が必要か等耳を傾け本人の心身の状態と向き合い、安心して生活できるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談を、家族の立場に立って聴き止めます。これまでの経緯をゆっくり聴いて、家族の求めているもの等を理解する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や要望について、その時点で必要なことを見極め出来る限り対応できるようにしている。必要に応じて他のサービス利用などの調整を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで経験した楽しみ、悲しみや苦しみなどを語って頂き、その体験時の感情等を共有して和やかな生活が送れるように接している。昔の話などを聴き、驚いたり感動したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花火大会に参加していただいたり、必要があれば家族の協力を得て共に支援していける関係を心心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎ、年賀状出し等を手伝うなどして、本人のこれまでの外部との関係が途切れないよう支援している。	携帯電話を使用したり、友人・知人が来た時に買い物に出かける人もおり、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。利用者一人ひとりの性格を把握し孤立しないよう、利用者同士助け合いながら過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談にのり、提供できる情報などは伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対応の中の様子・表情などから、本人の希望や意向の把握に努めている。	日常の表情や心身の様子を観察、家族からの情報などから、入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、そこで得た情報は連絡ノートに記載することで、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から生活暦等の話を聴き情報収集を行い、これを職員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、解ることを感じ取り全体の把握へとつなげている。出来たことなどは確認し、記録しておく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の会議にて職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。	本人、家族の意向を基に、月に1回開かれる会議において職員間で意見交換を行い、計画作成担当者が作成している。会議に参加できない職員についても、毎月異なる曜日で開かれるチームケア会議を通して、全職員の意見が反映される仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の暮らし等を記録し、職員で共有している。 また職員間で意見交換を行うなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに柔軟に対応して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館や公民館の利用を促し、できるだけ地域との交流を持つ努力を行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にヘルパーが支援して受診している。体調変化時にはすぐ受診し、また家族・本人等希望するかかりつけ医にも受診する等、支援している。訪問歯科も受診している。	月1回職員が同行し協力医療機関へ受診している。協力医療機関以外でも、本人、家族が希望するかかりつけ医への受診の支援もしている。訪問歯科も入居者の治療の状態に応じて随時実施し、週1回歯科衛生士が訪問して、口腔ケアの実施、指導を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が元看護師のため、問題が起きた時にはすぐ相談し早期発見により適切に支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援情報を、退院時には看護サマリーで情報交換、相談に努めている。入院機関へは週に1～2回顔出しをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ重度化に伴う措置の意志・確認書を作成し、説明を行っています。医師とも連携し安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	本人、家族の意向をふまえ、ターミナルを迎えるにあたり、延命治療を希望するかどうかの意思確認書を作成している。実際に家族の希望により、訪問診療、訪問看護と連携をとりながら、ターミナルを迎えた事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時のマニュアルを作成し、対応の仕方を確認している。救命救急研修にも参加し必要な時には実践活動できるよう勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回様々な場面を想定して行っている。訓練を重ねる毎に避難に要する時間も早くなっている。スプリンクラーや直通で消防署に通じる火災報知器も設置している。	火災の避難訓練は、昼、夜間など様々な場面想定して年2回行っている。また、昨年の震災の教訓から、水や米などの備蓄や、運営推進会議などを通して、近隣に協力を依頼するなど、積極的に地域との協力体制構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの誘導は、その人の人格を尊重しプライバシーを傷つけないよう「さりげなく小さな声」で対応している。	ホームの運営方針にも謳われている、入居者一人ひとりの人格の尊重について、自分が嫌だと思うことはやらないということを基本にして言葉かけや対応をしている。食事介助時も、職員が優しい言葉かけや対応を行っていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で「何でも言える雰囲気作り」に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ以外は一人ひとりのペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、出来る人にはご自分で選んで着て貰っている。髭剃りや散髪は、声掛けしたり本人の希望を聞きながらしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事を食べ、食事の楽しみを理解して貰えるよう支援している。時々メニューの希望も聞いて決めている。片付けが出来る人にはカウンターまでお願いしている。	調理専属の職員が、希望を聞いたりしながらメニューを考え、ホーム内にある畑で入居者が収穫した野菜を使用するなど、楽しみながら食事ができるよう工夫している。できる人には配膳や片付けなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事の水分の摂取量を記録している。本人に体調に合わせ、ミキサー食・おかゆ等を提供している。また糖尿病の利用者の食事摂取量にも十分注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて、自分のできる方には声掛けして歯磨きや義歯洗浄をして頂き、自力でできない方には介助して実施している。 また、定期的に歯科衛生士もケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの記録から排泄パターンを把握し早めにトイレを誘導するよう心がけている。	個々の介護日誌に排泄パターンチェック表があり、それに基づいて適切にトイレ誘導を行っている。日中は基本はトイレで排泄ができるように支援している。また、排便チェック表もあり、便秘など体調の変化にも対応できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日見て水分補給・運動への声掛けをしている。 様子を見て医師に相談し便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回が基本と決っている。体調に合わせて清拭対応や次の日に入浴する等本人の希望に沿うようにしている。	週2回必ず入浴できるようしている。体調がすぐれなかったり、入浴を拒否する人に対しては、清拭や、入浴日を変えたり、声かけを工夫するなどして、全員が入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動に配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のファイルを作成し、職員が判る場所におき情報を共有している。 呑み忘れのないようにその都度記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った力を発揮できるような場面を作って支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩に出かけるよう心がけている。 本人の希望を把握し、めがねその他の買い物に出かけたり、お花見に出かけるなど支援している。	散歩や近くの図書館でのイベントに出かけたり、買い物を希望する人には、車でスーパーに出かけるなど本人の希望にそった支援に努めている。季節の行事としては花見に出かけるなど外出の機会を設けている。	散歩や近隣への外出の支援は行っているが、車いすを使用する人が増えてきたり、全員で出かけることができる大型の車がないことなどから、全員での外出は難しい状況ではある。今後、福祉バスの利用や外食の機会を設けるなど、あらたな取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理したい人々は小額をご本人に管理して頂いている。 買い物にも職員が同行し、希望する商品が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛ける支援をしている。家族からの電話の取次ぎや年賀状・手紙等の投函支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花、装飾や各種行事の写真等を飾り季節感を採り入れ、その時々を四季を感じていただけるよう配慮している。 各部屋、リビングに加湿器や湿度計を置き温度や湿度を調整し、居心地良く過ごせるよう心がけている。	入居者の書いた習字や、職員手作りのお雛様や花などが飾られていて、季節感が感じられる。加湿器を設置するなど湿度、温度管理にも気をつけている。大きな窓のある明るいリビングは、夏場はゴーヤでグリーンカーテンをつくるなど、居心地のよい空間になるよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファ、外庭にはテーブルと椅子等を置き仲良しの利用者同士が落ち着いてくつろげるスペースを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた家具・生活用品を入所時に持ってきて頂いている。 家族の写真を飾ったり、仏壇を置いたり一人ひとりに合った空間を作り、居心地良く過ごせるよう配慮している。	本人が使用していた馴染みの家具を持ち込み、壁に写真や手作りのカレンダーなどを飾るなどして、それぞれが居心地よく過ごせる居室になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活ができるように、浴室・トイレ・廊下に手摺りを設置している。 トイレ・各人の部屋等が良く判るように見易いところに名札を、また部屋内には本人の好きな物を掲示している。		